

信じる

気仙沼市立鹿折中学校 3年 島山 詞

「私の特技って何だろう？」ふとした瞬間に、こんな疑問が頭の中に浮かんできます。

私には特技がありません。運動は人並み、勉強だってそんなにできるわけではありません。しかし、私の周りには得意なものをもっている人がたくさんいます。スポーツが得意で部活動で活躍している人、人前で話すことが得意な人。誰かの特技を発見するたびに「すごいな。」と感心する一方で、「私には何ができるのかな。」と劣等感を感じるのです。友達と一緒に勉強したり、遊んだり。毎日の生活に楽しさを感じてはいるものの、心のどこかには自分を諦める気持ちがずっと渦巻いていました。

例えば部活動。私が所属しているソフトボール部は新入部員がいなかったため、今年の中総体に出場することができなくなりました。「ずっと続いてきた伝統が私たちの代で途絶えてしまうなんて…。」本当に悔しく、悲しかったです。人数の問題だとはいえ、部長という立場にあった私はとても責任を感じました。誰かに何かを言われたわけではありません。ですが、「私って本当にだめだな。」自分で自分を責め、心がどんよりと重くなりました。

しかし、ある時、教室に飾られていた日めくりカレンダーで、私は気になる一言に出会いました。カレンダーは昨年、国語の授業で作成したもので、一人一枚、名言やお気に入りの言葉を書きました。その日の名言はこうでした。「あなたはあなたであればいい。」この言葉を見た時、私はなぜか今までの自分を思い出していました。友達と自分を比べて落ち込む私。他の人を羨ましがって自分を悲観する私。今までの自分がとても浅はかだったと思いました。「私は逃げていたんだ。」と気が付きました。自分にできることを諦めて限界を狭め、自分自身を信じることから逃げていたのです。そのことに気付かせてくれたこの言葉は、私にとって本当に大切な一言になりました。

それからの私は少し変わりました。物事に対して素直に感心できたり、楽しいと思えたりすることが増え、毎日が少しずつ明るい方へと動き出して行った気がします。部活動でも、6月、地区公民館が主催するソフトボール大会に出場し、楽しく全力で、私たちらしい最後の試合をすることができました。中総体には出られなくても、すっきりとした気持ちで引退することができたのは、部員みんなが、そして私が、環境を言い訳にして自分を曲げることなく、目標をもって行動できたからだと思います。

「私の特技って何だろう？」ずっと感じていたこの疑問。私はこの疑問の突破口を見つけました。「特技はなくていい。」それが今の私の答えです。あの言葉に出会い、間違いに気付けたからこそその答えです。

同世代の皆さんはどうでしょうか。他の人と比べて自分を値打ちのない人間だと思っ
てはいませんか。

「あなたはあなたであればいい。」家族や友達に支えられてここまで成長してきた私たちですが、今後、大きな壁にぶつかった時、本当に苦しい時、自分で自分を信じられなくて、誰が私たちを信じてくれるのでしょうか。

私はこれから、自分を信じて、誰とも違う新しい道を一步ずつ踏みしめて生きていきます。

だって、私は私なのですから。

